ミャンマーに子ども病院を

建設へ「AMDA」が支援

岡山市に本部を置くNGOの「AMDA」（アジア医師連絡協議会、菅波茂代表）は十二日、ミャンマー・メッティーラ地区に小児科を中心にした病院を建設する、と発表した。AMDAは支援母体となる「ミャンマー子ども病院支援委員会」を設立。資金の調達や人的な支援に乗り出す。今月二十日には現地で起工式が行われ、建設に着手する。

AMDAは平成七年から、首都のヤンゴンに事務所を置き、そこから北約五百六十キロにあるメッティーラ地区で診療活動を実施してきた。

メッティーラ地区の総人口は二十八万二千人。そのうち十五歳以下の人口は十万六千四百人で約三分の一に上る。しかし、近くに小児科の専門の病院はなく医療機器も不足しているため、乳児死亡率も高いという。

AMDAはミャンマー政府の要請を受け、医療関係者や同国で活動する日本のNGOなどとともに支援委員会を組織。病院を建設し、運営の支援にあたることにした。来年末ごろに開所の予定で、ミャンマー国内の医師を目指す学生たちのための研修施設としても位置付け、現地に入った日本の医師が指導に協力する。

乳児死亡率の低下めざす

記者会見したアウン・チョー・ザン・ミャンマー大使館二等書記官は「栄養失調改善などに取り組んでいるが、近年はHIVなどの新たな疾病が出てきており、病院建設に期待したい」。また、支援委員会の委員長に就任した吉岡秀人・国立岡山病院医師は「メッティーラ周辺は第二次世界大戦で多くの日本人が死亡した所であり、当時、現地の民家にかくまわれて命を救われた人も多い。日本とかかわりの深いこの国の人々を支援することで、さらにきずなを深められれば」と話した。

募金先は、東京三菱銀行岡山支店・店番601普通口座0711934か、中国銀行一宮支店・店番188普通口座1299636。口座名は「ミャンマー子ども病院支援委員会」へ。

◀ ミャンマー・メッティーラ地区で巡回診療を行う医師。小児病院の建設に期待がかかる（AMDA提供）